

新知見あれこれ(8)

奥原弘人

H. Okuhara : Some new or noteworthy plants found in Nagano Prefecture

(1) アザミの雑種その一

大町市稲尾の山中に未知のアザミのあることを前に見ていた。これをはっきりしなくてはと思い1昨年行った時は多くは刈りとられていて残ったものも花が終っていたので来年を期して帰った。

昨年は3回ここを訪れた。9月21日に見ると、昨年切株のあった所は野菜畑となっており、付近に数群が見られた。1.5 m以上の茎が直径50~60cmの円内に数本ずつ放射状に周囲のオオミゾソバ、アキノウナギツカミ群落の上に倒れていた。茎や葉はナンブアザミかと見られた。持ち帰って植えてみようと思えば、土が湿っていて軟かく簡単に抜けたのを見ると、前年の腐りかけた茎の根元から15cm余も横に地下茎をのびして新しい茎が立ち上っていることがわかった。これは正にヤチアザミの特性である。

頭花を見ると総包はヤチアザミに似ているが、片は少し長くのびている。しかし茎や葉はヤチアザミには程遠い形である。

同月27日再び行って周囲を見てまわると、上部の葉にヤチアザミに近い形のもののついているのがあった。これによって、これはナンブアザミとヤチアザミの雑種であることを知った。低い丘を東に越えた居谷里湿原にはヤチアザミが群生し、西の鉄道沿いにはナンブアザミが大きく立っている。この山中も今は若い杉林になっているが、ナンブアザミやヤチアザミの生えそうな所であるから、以前はこの両種もあって、両種の雑種が生れたことが考えられる。

この雑種は麻績村で発見しヒジリアザミと命名したが、これとは茎や葉が大きく違っている。雑種の性質上これはよくあることである。しかしこれもヒジリアザミと呼ぶのは適当でないと考え、一応これを産地によりオオマチアザミと呼ぶこととしたい。

(2) アザミの雑種その二

昨年10月29日木曽郡山口村の村誌のための調査にあたり、同村麻生地区の国道下でアザミの1株を見つけ、スズカアザミの標本を作っておこうと採集した。翌日形を整えようとして新聞紙を開くのに粘着していて紙が破れそうである。頭花を見るとスズカアザミとは異り、総包はアズマヤマアザミに近い形であり色である。総包片はそれより長くのびていて頭花は枝先に1個ずつついている。

総包の粘るのはアズマヤマアザミ・ノアザミの特徴である。ここはスズアアザミの分布域であるが山中にはアズマヤマアザミも見られる。

以上のことから、これはアズマヤマアザミとスズカアザミとの雑種であると認められる。よってこれをヤマグチアザミと呼ぶことにしたい。

(3) フジアザミの変りもの

志賀高原の東館山高山植物園にフジアザミに近い形のものがあり、管理人の春原弘氏が近くの焼額山山麓から移植したものという。

フジアザミに比べて葉は薄く軟かく粗鋸歯があって欠刻らしいものはない。総包外片は淡緑色で縁の辺が多少紅紫色をおび開出するがフジアザミのように反曲することはない。

これはフジアザミの変種、または何かとの雑種と考えられ、更に検討を要するが、一応これをシガフジアザミと呼ぶこととしたい。

(4) クルマバハグマの変りもの

南安曇郡奈川村の寄合渡郵便局長奥原吉男氏は山草の愛好家であるが、同村の山地にあったというクルマバハグマを1株掘取って持参した。同様のものがその辺に数株あったという。これはグルマバハグマと異り、茎の中程に輪生している葉の葉腋からも長さ5~8cmの枝を5本出し、その各々に2~3個の頭花をつけているものである。

これは固定したものであるか、ノハラアザミの奇形クルマアザミのようなものであるか、植栽してあるので本年現地のものも調べて結論を出したいが、一応これをナガワクルマバハグマとして扱うこととしたい。

(5) キソホトトギスについて

本誌第8号にタマガワホトトギスの新変種としてキソホトトギス *T. l. var. kisoensis* を発表した。昨年再び現地を歩いて観察したので補筆しておきたい。これは溪谷の急斜面や岩棚上に生え、茎は長さ25~40cmで細く、多少垂れ下って茎頂に1~2個の花をつける。葉は長さ5~8cm、幅2~2.5cmと細長い。花は7月中旬から8月上旬にかけて開き、花被片は長さ2.5cm内外とやや小さく淡黄色である。最初見た時より個体数が遥かに少なくなっていた。岐阜県方面からの観光客が多くなって残念である。